

埼玉保己一賞

埼玉保己一
延享3年(1746年)～文政4年(1821年)
武蔵国児玉郡保木野村(現・埼玉県本庄市)生まれ

令和3年度募集

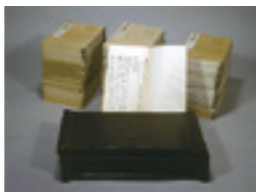
募集期間 6月1日(火)～9月30日(木)

障害がありながら、社会的に活躍されている方などが対象です。(視覚障害者に限りません。)

視覚に障害がありながらも大文献集『群書類従』を編集・出版した埼玉県本庄市出身の江戸時代後期の学者『埼玉保己一』。その精神を受け継ぎ、障害がありながらも不屈の努力を続け顕著な活躍をしている方や、このような障害者のために様々な貢献をしている方に『埼玉保己一賞』を贈ります。



群書類従(版木)



▲群書類従



▲源氏物語を講義している保己一



▲渋沢栄一(渋沢資料館所蔵)



▲荻野吟子



▲保己一の小さな像に親しげに触れているヘレン・ケラー

埼玉保己一とは

延享3年(1746年)～文政4年(1821年) 武蔵国児玉郡保木野村(現・埼玉県本庄市)生まれ

埼玉保己一は江戸時代後期に活躍した全盲の学者です。令和3年(2021年)は、没後200周年にあたります。7歳のとき、病気がもとで失明しましたが、15歳で江戸に出て、学問の道に進みます。

多くの困難の中、大文献集「群書類従」666冊をはじめ、散逸する恐れのある貴重な文献を校正し、次々と出版していきました。

48歳のときには、国学の研究の場として現在の大学ともいえる「和学講談所」を創設し、多くの弟子を育てました。

保己一は、盲目の身で国家的大事業を成し遂げたわけではありません。学者として有名になり、どんなに多忙な日々を送るようになって、目の不自由な仲間のことを忘れず、生涯、自分と同じように障害のある人たちの社会的地位向上のために全力を注いだのです。

そして、文政4年(1821年)2月、盲人社会の最高位である総検校につき、同年9月に天命を全うしました。

渋沢栄一が敬愛した人物

保己一から遅れて94年後に、渋沢栄一が現在の埼玉県深谷市に生まれています。「日本近代資本主義の父」と呼ばれ、第一国立銀行をはじめ、鉄道、製紙、造船など500社にものぼる企業設立・育成に関わりました。

また、福祉や教育などの社会事業にも熱心に取り組み、社会福祉事業の先駆者でもありました。

保己一を敬愛し、その顕彰事業に尽力したことが広く知られています。

荻野吟子を医師へと導く

日本最初の公認女性医師・荻野吟子は現在の埼玉県熊谷市の出身です。困難にめげず医学部を優秀な成績で卒業したものの、「昔から医者には男に決まっている」と言っただけで役人から医師への道を拒まれていたのです。男尊女卑の壁に医師への道を閉ざされかけていた吟子を救ったのは、保己一がまとめた古代律令の解説書「令義解」でした。そこには女性の医師についての規定があったのです。これが、「日本にも女性の医師がいた」という吟子の主張の根拠となったのです。

ヘレン・ケラーが目標とした埼玉保己一

「私は特別な思いをもって、埼玉にやってきました。それはつらく苦しい時でも、この埼玉ゆかりのハナワ・ホキイチ先生を目標に頑張ることができ、「今の私」があるからです。」

世界的偉人として讃えられる、目も見えず、耳も聞こえず、そのために話すことも困難であった女性、ヘレン・ケラーは、昭和12年(1937年)、埼玉会館で開かれた講演会でこのように話しています。

お問合せ先
埼玉県福祉部障害者福祉推進課 『埼玉保己一賞』 係
〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1
TEL: 048-830-3309 FAX: 048-830-4789
E-mail: a3310-06@pref.saitama.lg.jp
http://www.pref.saitama.lg.jp/a0604/hanawa/index.html



埼玉保己一の紹介動画はこちらから御覧下さい



共生の精神が生んだ偉人 全盲の国学者 埼玉保己一

主催 埼玉県 共催 本庄市/埼玉県教育委員会
後援 厚生労働省/文部科学省/公益社団法人温故学会/社会福祉法人全国社会福祉協議会/社会福祉法人日本身体障害者団体連合会/社会福祉法人日本視覚障害者団体連合/社会福祉法人東京ヘレン・ケラー協会/社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会/特定非営利活動法人埼玉県障害者協議会